宗像

毎月十五日発行
発行所
宗像大社
宗像会
〒811-35 福岡県宗像郡玄海町
電話 0940-62-1311㈹
定価 一年送料共 1000円

神具・装束
結婚式場用品
福岡店 福岡市博多区東公園二－三一（〒812）
電話 福岡（092）六五一－九四五六番
本店 京都市下京区油小路六条北入（〒600）
電話 京都（075）三三一－三三四一㈹～四番
株式会社 井筒

早春の玄界若布を献上

七浦の漁民が極寒の荒磯で採取

宗像大社海洋神事奉賛会の重儀である若布献上の儀が、去る二月十八日（木）養父宮司、梶木幸夫神湊漁業協同組合長、吉田清次地島漁業協同組合長と随行神職一名の計四名で皇居へ参内し、恙無く執り行われた。

この若布献上の儀は、皇祖天照大神の神勅を戴いて鎮座し、皇室との由縁もことの外深い当大社が、聖寿の御長久と皇室・国家の安泰と弥栄を祈念して、昭和三十八年より毎年玄界灘の荒磯で採取された、早春の若布を宮中「賢所」「天皇・皇后両陛下」「皇太子殿下」に献上申し上げているもので、今年で三十一回目を迎えた。

海洋神事奉賛会では、本年の若布献上にあたり、先ず一月二十八日宗岡会長以下関係者が集い、当大社斎館に於て初会合を開催、養父宮司、献上要務担当神職を始め関係神職との協議を行った。会議では、今年は天然若布の生育量が天候不順などもあり、例年に比較するとやや少な目であるが質は良好で、二月十日前後には納品できるのではとの報告があり、宮内庁の意向を伺った上で日程を決め、献上申し上げることを決定した。

同奉賛会では早速若布奉製作業に入り、厳寒の磯で採取従事者が刈り取った新若布を、真水で丁寧に洗浄した後、天日で干し磯の香も馨しい板干若布を謹製した。

二月十一日、宗像七浦の六漁協から入念に選別された見事な献上若布6kgづつ計30kgが納品された。この若布を当大社で更に厳選の上最上級の若布4.5kgを選び、1.5kgづつ三箱の杉柾目板献上箱に奉安、献上当日まで厳重に保管された。

二月十七日午前九時、宗像大神の神前に献上若布を供え、献上奉告祭を斎行、献上の恙無きが祈念された。祭典終了後、養父宮司以下献上者一行は、白布に包まれた献上若布を捧持する巫女三名と共に直ちに当大社を出発、福岡空港へと向った。空港では毎年特別の御配慮を賜っている全日本空輸株式会社が手配された特別室にて報道陣の取材を受けた後、一行が搭乗する全日空三五八便のシップサイドに於て、巫女よりスチュワーデスへ献上若布を託す手渡式を行い、正午過ぎ一行は空路東京へと向った。

翌十八日午前十時、皇居坂下門より宮中に参内した一行は、先ず宮内庁鎌田掌典に養父宮司より玄界灘の早春の若布献上の旨を言上、採取従事者の赤誠を詳しく説明し、同掌典へ賢所への献上をお願い申し上げた。

その後宮中三殿参拝のお許しを得、一行は清浄なる玉砂利を踏みしめ御殿近くまで参進、静寂の中荘厳極まりなき神殿の大前での参拝の栄に浴した。

宮内庁を辞した一行は、直ちに赤坂御所、更には東宮仮御所へ赴き、養父宮司が「宗像七浦の漁民が厳寒の海で真心込めて採取した早春の若布でございます」と奏上、天皇・皇后両陛下と皇太子殿下へ各々侍従を通じて献上申し上げた。

ここに宗像大社並びに海洋神事奉賛会の春の重儀、若布献上の儀も無事終了した。

この若布献上の儀を終えると、郡内各漁協の若布漁も解禁となり、名にし負う荒浪の玄界灘にも本格的な春の訪れが、もうそこ迄に近づいて来る。

本年の献上若布捧持者は左記の通りである。

宗像大社宮司　養父　守
権祢宜　宇都宮勤
神湊漁業協同組合
組合長　梶木幸夫
地島漁業協同組合
組合長　吉田清次

尚、今回の若布献上に際し御協力下さいました、全日本空輸株式会社、出光興産株式会社を始め、多数の方々には、紙面を以って厚く御礼申し上げます。

抑え切れないほどの怒りがこみ上げてくる。

山形県新庄市の中学校で起きた、中学一年生児玉有平君が「いじめ殺された」事件である。

事件が起きたのは一月十三日。放課後、卓球部員だった児玉君は練習のため体育館へ行った。入口で待ち伏せしていた数人のグループに「芸」を強要され、拒否すると、頭部を殴られ、重ねて金太郎の芸を強いられ、むりやり体育館のステージで歌や芸をさせられたのだという。さらに、用具室に連込まれ、一人が見張りに立ち、残る六人により殴る蹴るの暴行を受けたあげく、巻いて立てかけてあったマットの中へ抱え上げられ逆さに突っ込まれた。この時午後四時四十分頃。警察発表の死亡推定時刻が午後七時から八時の間というのであるから、その間どんなに抜け出そうともがき苦しんだことであろうか。顔全体が膨らみ、鬱血していたという。五年生のときに始まり長い間いじめられ続けた児玉君は、この時からもういじめられることがなくなった。

何と悔しく悲しい結末ではないか。しかし、こうした悲惨な事件に至らなければ、問題が顕在化しないという現在の公立学校教育の現場にこそ、子を預けている親に大きな不信感を抱かせる源があるのだ。

○

文部省の調査によれば、平成三年度一年間に中学校で確認されたいじめは一万二千件。これは、表面に現れた「事件」の報告であり、この裏には幾十倍もの表に出なかった「出来事」があるに違いない。全国の中学校数一万九百五十校（昭和六十年）を越える件数のいじめ事件が毎年発生しているのである。いったい日本の学校教育の現場はどうなっているのか？

明治五年に学制が制定執行され、日本各地に小学校が建設され、子供の教育はもちろん学校を通じて日本人の習俗・習慣・暦など様々な面で、生活の近代化を促してきた。学校制度は日本が近代国家に生まれ変わるために、大きな役割を果たしてきた。この一世紀余りの学校制度の歴史を通じて、学校がいじめ殺人事件の舞台となったことは、最近までなかった。平成三年十一月には大阪豊中市の中学校で女子生徒が、四人の生徒に暴行されていじめ殺されている。神戸市の高等学校で起きた「校門事件」、長野県の高校で起きた同級生殺人事件も記憶に新しい。学校は、教育の場であり、いじめや喧嘩やまして殺人の場ではない。義務教育は、権利であると同時に、誰もが受けなければならない義務である。強制的制度により子供等を集めるのが学校なら、最低子供等の生命の安全だけは保証すべきだ。その保証すら出来なかったこの事件は、日本の学校制度の存続を脅かしかねない大問題であろう。

学校教育制度の危機

○

疑問は次々に湧く。

何故クラブ活動の場に一人の教師もいなかったのか？「サインが見えなかった」「いじめられているとは知らなかった」と発言する不適格「教師」が何故教師になれたのか？　何故まわりの子供達は無関心でいられたのか？

被害者であった児玉君の人権が踏みにじられて、何故、加害者の少年七名は「保護」されるのか。加害者の少年七名がどのような者達であったのかということ、この事件の本質を知る上で重要な鍵になる。日頃から問題行動を繰り返していたのか、それとも全く普通の子供達であったのか。もし普通の子供達であったのなら、現在の学校教育制度の破綻を意味している。再発防止のため、教育制度の信頼を多少とも回復するため、加害者の少年達の生いい立ち・人格・家庭などについて我々は知る必要がある。

また、マスコミの対応にも疑問が残る。この事件は、これまでの「いじめ自殺事件」とは違い、学校制度の根幹を揺るがす大事件である。にもかかわらず、取組が浅すぎる（除東京新聞）。新聞の社説のレベルにまで引き上げて、論じていたのは毎日新聞だけであった。しかし、その毎日新聞すら「いじめ死」という表現（読売も同様）で、自殺と殺人との本質的な違いを無視してしまっていた。「いじめ」ではなく殺人である。弱いものを苦しめ悩ます、「いじめ」の範疇を遥かに逸脱した行為である。新聞各社には、今後、この事件の掘り下げと共に教育問題への切り込みを期待する。

○

教育の荒廃が叫ばれて久しいが、行き着くところまでいってしまったこの事件を契機に、仮に、全国の親達が現在の教育制度に対し、一斉に「ノー」と言い出したなら、文部省はどのように対応するつもりであろうか。直ちに学校教育に対する信頼回復のための最大限の努力を要望する。

（神社新報より）

余滴

春のお彼岸を迎える頃、活気を呈した河豚漁が終りに近づく。

一般的に、「ふぐ」と呼ばれるこの超高級魚、本場下関では濁らずに「ふく」という。なぜか、ふぐは不遇につながり、ふくは福につながるそうだ。

日本一のふくの水揚げを誇る下関・彦島の南風泊市場は全国の九十パーセント、年間取扱高二千二百トンのふくが集積する一大基地となっている。

仲卸人たちの発する熱気の真只中、緊張感のなかで厳しい選別が始まり、「エカ、エカ、エカ」の掛け声で活気づく下関特有の〝袋ぜり〟は、冬場の風物詩として全国に知れわたっている。

一方、北の海では今冬異変が起きた。

ハタハタ漁で知られる秋田沖でトラフグが豊漁だそうだ。

トラフグは、フグの中でも最高級。日本海側では主に西部に生息、それ以北では漁獲量の面で商売が成り立たないとされ、水温の低い同海域で単独漁が行われることは今日迄なかった。

昨秋から三ヶ年ハタハタの全面禁漁に踏み切った北の漁場は本来ならば暗い表情であろうが、思わぬ海神の恵みで、漁師さんの家計もフクフクしい。

日本近海で取れるフグは五十五種類、うち二十三種類が食用できると定められているが、大衆フグ料理や、玄海の土産品として重宝されてきたナシフグが有毒と判定され、此の度全面販売禁止となった。

トラフグは高嶺の花、賞味は絶望的な昨今、ナシフグ販売禁止の措置は痛い。

第三八一回　宗像大社歌会詠草

中村吾郎　選

毎月末日〆切

武丸　中村さつき

若き日に義父の連れ来し韓国の少年米寿となりて病み臥す

（評）どこの国の人もかわいそう。伝え聞いたであろう。作者の知る韓国の少年も老いて病むという。

福岡東　清原　絹代

リハビリに縛られて立つ老人はキリスト受難の磔に似る

（評）皮相的な歌のように見えるが、そうではない事を読者は知るべき。作者の見ている目は笑わない。

大島　河野　英子

一等の福引き当てし孫娘箪笥を車の初荷となせり

（評）孫娘の得意満面の顔が浮かぶ。ややユーモア性を含んで「初荷」と表面する。これは作者の悦び。

田熊　鷺頭かつ代

水仙の花むら白き葉のかげに芽だちひそけき芍薬の紅

大島　星形トミエ

夕暮るる海は光を失ひて岩打つ波の音の親しさ

大島　目原　節子

山路をゆけば日溜の一処色あざやかな冬薊咲く

吉留　白木うめの

くる朝もくる朝も柿の落葉掃く掃きつくせばわれに冬来る

鍾崎　安永　久子

辞書の字の拡大鏡に定まりて冬の夜長の作歌にあそぶ

名古屋　小田　留子

夜の更けて雨は霙と変りしか膝の痛みにいくたびか覚む

自由ケ丘　細川　絹子

寒の間温き日ありて甲高き鵑の声きく梅の木あたり

吉留　高山　信子

ひと息に読んでしまふにためらはる味いかみしむる本に出逢いぬ

原町　八波　五月

着ぶくれて我も一役裏畑に今年終りの枯草を焼く

名古屋　小田　喜一

年々のことなりながら新しき暦をめくる心気負いつ

八幡西　山田　耕夕

大寒の朝の陽を享け紅梅の綻びそめてほのかに匂ふ

徳重　石松や寿子

北に帰る鳥の群は幾度も輪をえがきつつ遠ざかり行く

赤間ケ丘　松本　澄子

夜半の雨激しくなりて波騒ぐ音の聞ゆる明けがたの宿

大島　杉田　禮子

とことことと夫の後を従き歩くインコに吾子の遠き日憶ふ

日の里　後藤　君代

可也山の梅林にのぼり見下せば花を透して海のきらめき

城南ケ丘　中間日出子

苦難多き人生送りし翁とふ意識なきまゝひとり横たふ

福間　池浦千鶴子

目覚しの容赦もあらず鳴出でて真冬の朝の台所にたつ

池田　小田しめの

氏子等の去りゆきし祠ほの暗く公孫樹のもとに静もりにけり

福間　本松　宣子

湯の宿に夫とたはむれし童時来れば去る親待つ部屋へ

自由ケ丘　津江富美子

白梅の今咲き盛る寺庭に目をこらし見る大寒近し

朝町　古田千代子

年若く急死をしたる友思う人の命のはかなさ偲び

研修所上棟祭斎行

四月末完成予定

往時の五月会神事の精神を今に伝える、五月祭が執り行われる玄海町江口鎮座の、皐月宮境内に建築中である宗像大社研修所の上棟祭が、去る二月三十日午後五時より斎行された。

この研修所は、一昨年の台風で被害を受けた五月寮に代って、新しく建設着工されたもので、五月祭、来客者接遇などを目的とした施設である。五月寮が使用不可能となった後、当大社ではその復旧について種々検討、修復工事を行うよりも新築を建設した方が、今後の為にも良いと判断、昨年十二月十二日地鎮祭・起工式を執り行って建設に着工した。

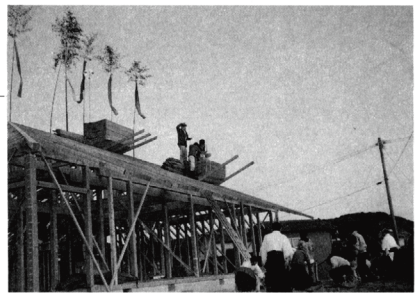
工事は㈱弘江組が請負い、年末年始の多忙な時期にもかかわらず急ピッチで進められた。この施設の建設にあたっては、建設地が砂地のの為基礎工事は難行したものの、その後は順調に進み、上棟祭斎行に至った。

当日は好天にも恵まれ、午前八時より二十名近くの工事関係者が集まり、縁起用赤手拭を身につけ作業が行われた。今は昔と違ってクレーン車などの使用で、みるみるうちに柱が組み立てられ、棟木も置かれて家が立ち上がり、あとは上棟祭を待つばかりとなった。屋根の東西には天の弓矢、地の弓矢、五色旗などが飾り立てられ、祭場が設けられた。

定刻午後五時、当大社養父宮司以下職員、施工業者弘江組社長を始め工事関係者参列の下、升谷祕宜外神職一名の奉仕により祭典を斎行、無事の竣工が祈念された。

祭典終了後、棟梁外数名が屋根に昇り、餅銭の儀式を行った。この儀式を行う頃になると近所の人達や参列者が建物の周辺に集まり、餅銭が投げられる度に競って拾い合っていた。

この研修所は、四月末迄には竣工の予定で、本年の五月祭の直会は、建設されて間もない木の香漂う新研修所に於て、盛大に行われることであろう。



建国祭斎行

我が国の誕生を祝う

二月十一日午前十一時、我が国の誕生を記念する建国祭が厳粛に斎行された。定刻、養父宮司以下神職・巫女奉仕のもと、先ず宮司が神武天皇創始以来の日本の国体護持と皇室・国家・国民の弥栄を祈念して祝詞を奏上、続いて巫女による浦安舞の奉納、玉串拝礼を執り行い祭典は滞りなく終了した。

この建国記念日は「紀元節」と称し、神武天皇が国家統一を使命として、日向の国より東征の途につかれ各地にて荒ぶる賊徒を平定、畝傍山の東南の橿原の地に宮を建てられ即位の式を挙げられた日が、辛酉年春正月元旦とされており、太陽暦の採用に伴って、この正月元旦は二月十一日となり、以来この日が我が国の誕生の日「紀元節」と制定され明治六年に皇霊殿に於て祭典が執り行われ全国に広がっていたが、大東亜戦争の敗戦により昭和二十二年に廃止されたものの、昭和四十一年政令により「建国記念の日」と名称を改め、再び国家の祝日として復活された。

毎年この日には全国各地で国の創始を祝うパレードが行われているが、一方、マスコミ、各宗派・宗教に於て賛否を問う報道や集会がされている状況である。

今我が国は、世界の孤児とならないためにも、世界的視野に立って対処しなければならない。その為にも「建国記念日」の意義と役割を深く考えて見るべきではなかろうか。

宗像大社菊花会総会

本年の大会運営を協議

西日本菊花大会を主催している宗像大社菊花会の平成五年度総会が、去る一月三十一日（日）午前十一時より神湊魚屋に於て開催された。この総会は、前年度の大会の反省会並びに本年度大会の方針を協議するもので、毎年この時期に開催されている。

当日定刻五十余名の出席を得、太田権宮司、高田会長の挨拶の後、千々和理事長を議長に推挙し議事が進行された。

議事では、先ず前年度大会全般について事務局より報告がありその反省を踏まえて、本年度日程案が提案され、次の様に決定した。

三役会　四月十日（土）
理事会　四月十一日（日）
運営理事会　七月十一日（日）
理事会　九月十二日（日）
会場設営　十月二十四日（日）
搬入日　十月三十一日（日）
審査　開会式　十一月一日（月）
大会期間　十月三十一日～十一月二十日
表彰式　十一月十四日（日）
搬出日　十一月二十一日（日）
会場撤去　十一月二十五日（木）

会議終了後直ちに新年懇親会に移り、玄海の海の幸を充分堪能、午後五時すぎ全ての行事を完了し散会した。

また、宗像地区の菊花愛好家で組織する宗像菊花友会役員会が、三月十二日午後行われ、本年度の役員は次の通り決定した。

相談役　青谷貞五郎、楠理
会長　高山包夫
副会長　吉田耶　宮小路喜彦　秋本光司　吉武皐月
指導理事　大森敏　長崎弥太郎　安部樣
会計理事　網脇有子
理事　馬場園馨　最所孝子

また菊友会の勉強会は、毎月第二火曜日午後一時より大社斎館にて開催する事も決定した。

尚、宗像菊友会では、菊作りに関心のある会員の方を募集しておりますので、ご希望の方は大社事務局までご連絡下さい。

㈱新出光初午祭

より一層の飛躍を祈念して

株式会社新出光（代表取締役社長出光豊氏）の社屋に鎮座する「新出光稲荷神社」の初午祭が、去る二月十八日午前十一時より厳粛裡に斎行された。

同祭典には当大社から太田権宮司外神職一名が祭員として奉仕、出光豊社長、以下関連会社の役職者全員が参列された。

定刻十一時、同社屋々上に鎮座する稲荷神社の前に祭員並に参列者全員が参進。開式の辞、修祓の儀が執り行われ、続いて斎主太田権宮司による平成五年度の株式会社新出光外関連会社各社の社業繁栄、安全と社員の幸福とを願う祝詞が、朗々と厳かに奏上された。

斎主玉串拝礼に続き、㈱新出光外関連会社を代表して出光豊社長が玉串拝礼を行い、滞りなく祭典を終了した。

引続き隣りに鎮座する宗像神社を拝礼した。その後五階会議室に於いて、出光豊社長外参列者全員が出席して直会の儀が和やかに催された。

同社では、毎年初午祭、春の大祭が行われ、社長以下関連会社の全役員参拝のもと、社務繁栄と安全並に社員の無病息災を祈念する行事が執り行われている。

宗像大社春まつり（保存会）御案内

春の大祭を左記行事日程で斎行致しますので、皆様方お誘い合せの上、御参拝下さいますよう御案内申し上げます。

平成五年三月吉日

宗像大社社務所

記

三月三十一日　午後五時　総社地主祭
午後六時　宵宮祭
四月一日　午前十一時　大祭（氏子奉幣、主基地方風俗舞、浦安舞）
二日　午前十一時　総社祭（献上若布採取者表彰）
午前十一時四十分　宗像護国神社祭
午後二時　高宮祭
第二・第三宮祭
献茶祭（南坊流小方社中）
四月四日　午前十一時　交通安全講社祭

主な行事

四月三日　午前九時　奉納剣道大会（於境内―本殿脇）
午前十時　奉納吟詠大会（於清明殿）

一誌一話 (23)

汎玄界灘文化圏

樂 奈 子

北部九州と朝鮮半島及び中国大陸とが、海を囲んで大きな輪を形作っている。この周辺に住む人々は、遠い昔から一つの文化を時には共有し、共に使い分けてきたように思える。ある意味では、広義の共同体的なかかわりを持ってきていたと言ってもよい。昔からの汎玄界灘文化圏である。

東シナ海や玄界灘を中にして、縄文や弥生の頃の原始社会では、ムラやクニと呼ばれる小さな部落国家の分立であった。交渉や行動も個々人を単位とした往き来で、かなりの小規模単位で行っている。

統一集落を構成する基礎となったコメは、縄文後期中頃（約三五〇〇年前）にはすでに渡ってきていたと、新たに報じられている。発見された所は岡山県総社市南溝手遺跡である。出土した土器片からイネの葉の成分が検出されたようであるが、これは日本で一番古い時期の稲への発見例となった。

風と潮流が主役である太古の航海は、九州の沿岸各地より小船が出港し帆走して、各々が行き来している。これにより当時の世界の文化や生活風習も多く日本に流入してきた。四面を海に囲まれた日本は、欧州からのシルクロードの終着駅であり、今も昔も世界の多くの文化や技術が混合され、発展してきたのが日本の文化の特徴でもある。

古代社会も大和の時代に入ると、日本も統一国家へと踏みだした。いよいよ国と国との対外交渉の幕明けである。船団を組んだ大量輸送の海上交通へと移り、航路も一本化されて、定まった流通経路での航海が行われてきた。太い一本の線上にある航路、その道の中心となる沖ノ島は、路の標式・標灯にも編入され、この海上の道は当時の一級貫線である。これが北部九州と朝鮮半島とを結ぶ道「海北道」である。

弥生時代に多くの人々が往来したと思われる航海路は、魏志倭人伝に記載されている。朝鮮の帯方郡（ソウル市）→狗邪韓国（金海市）から海上を対馬国（対馬）→一支国（壱岐）と渡り、末盧国（松浦）で上陸し、陸上を伊都国（糸島）→奴国（福岡）と進む。当時はこのルートを通行していた船が一番多かったであろう。ここが弥生の船の銀座である。

奴国が位置した福岡平野の前面には、自然の力が築いた博多湾がある。天然の要害としての最高の港湾である。博多は永い間貿易港那ノ津として栄えてきた。ここは商業の町というだけではなく、古代から海外文化の導入口でもあった。

古代の表日本は日本海であり、特に玄界灘はその先鋒であった。

海北道の真中に位置する沖ノ島は、海の神が住える神島である。古来より海人族が祀ってきた神は、外洋の海神として大和朝廷の手が加わり、なお一層の祭祀へと発展をし、信仰をあつめてきた。一方島そのものは、外交の玄関筑前那の津の標柱とされるとともに、新たに大和朝廷の玄関口の役割も加味され、その後永きに亘り、外航路の重要な拠点とされていった。

河東小学校が創立百周年

ミュージカルの上演などで記念式典

地域のさまざまな人々を招き、「土曜教室」を開催するなど、ユニークで児童の自主性を尊重する授業と共に、開かれた学校づくりで各方面から注目されている宗像市の河東小学校（内藤邦彦校長・千百十四人）が、創立百周年を迎え、二月二十七日（土）、創立百周年記念式典を挙行した。

同校は、明治二十五年河東尋常小学校として開校、同四十三年に河東尋常高等小学校と、更に昭和十六年には河東国民小学校にと改称、神郡宗像の小学校として醇風美俗を譲り伝え、良き校風を培った。大東亜戦争後の昭和二十二年河東小学校と改称、世相は一変してもその校風と教育方針の源は、それ迄同様人格形成にありとして、教職員一同が一丸となって児童の教育にあたった。その方針が認められ、学校教育の成果が顕著であると、昭和二十五年県教育委員会学校杯を受賞した。昭和四十年代になると宗像市の流入人口も増加の一途をたどり、児童数も年々増え続け、旧校舎では充分な教育が行えなくなったことから、昭和四十七年宗像町須恵（当時）から現在地へ移転した。同五十年、五十一年と二連続でミニバスケット全国大会へ出場、勉学にスポーツにと児童達は活躍した。同六十年児童数もピークに達し、赤間西小学校と分離、現在に至っているが児童数の増加傾向は今尚続いており、宗像市一のマンモス学校となっている。

当日午前九時三十分より挙行された式典には、同校の卒業生である滝口凡夫宗像市長を始め父兄約三百人が出席、国歌斉唱、会長・実行委員長の挨拶や来賓祝辞の後、昔懐かしの行事として、思い出話の披露や授業の始まりと終わりを告げる鐘の再現など、百年の歴史を振り返りその歩みに思いを馳せた。最後に内藤校長が謝辞を述べ、校歌を斉唱して式典は無事終了した。

式典後、在校生による記念発表会が行われ、内藤校長が少年少女劇団の指導者でもあることから、ミュージカル「がんばれたんぽぽ」と「進め四の二島」を児童達が演じ、これ迄になって楽しめる式典となった。

続いて記念像の除幕式があり、代表の子供達の手により除幕されると、同校の校風を象徴するように、男女二名の子供のブロンズ像が姿を表わした。この除幕式で創立百周年の記念式典の全てが無事終了、同校は新たな一歩を踏み出した。

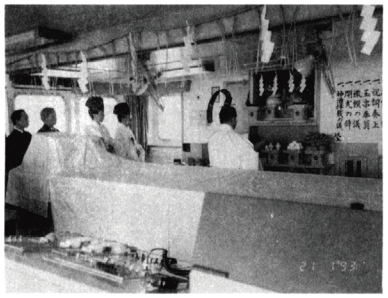
最新鋭LPGタンカー

エナジー・オルフェス竣工

操舵室に宗像大神を奉遷

三菱重工㈱長崎造船所において建造中であった、出光タンカー㈱の最新鋭LPG船「エナジー・オルフェス」（総重量四九、九九九トン）が竣工、去る一月二十日、九州液化瓦斯㈱の岸壁に繋留された、同船ブリッヂの神殿へ宗像大神の御分霊を奉斎する鎮座祭を午後三時より、また翌二十一日午前十時より鎮座奉祝祭を各々厳粛に斎行した。

祭典は、当大社山田祢宜外二名の神職が出向奉仕、鎮座祭では当大社より奉遷した御分霊を、同船操舵室の神殿へ無事奉安した。翌日の鎮座奉祝祭には、出光タンカー㈱社長窪田雄一郎氏外関係者、エナジー・オルフェス船長岡村邦輔外乗員が参列、神前に玉串を捧げ同船の航海安全を全員で祈念した。



祭典終了後、同船左右のブリッヂにて清祓の神事を執り行った後、操舵室に於て窪田社長が乗員一同に訓示を行い、国家・国民の為誠心誠意その使命を果たすよう述べた。

この後、同船は今一度三菱重工㈱長崎造船所へ引き返し、最終検査を受けて、同二十七日出光タンカー㈱に引き渡されると、当日、そのあしで、中近東に向けて処女航海の長い船旅の途についた。

「宗像ふるさと紀行」

警察署長が勤務の合間で執筆

宗像警察署の加藤昌隆署長が、宗像の歴史や自然、文化などをまとめた署員用の手引書「宗像ふるさと紀行」を執筆、四月中には自費出版の予定である。

加藤署長は平成三年三月宗像署に赴任、以来管内の平穏と地域住民に親しまれる警察署にと、署員の先頭に立って精励されており、「警察官の仕事は管内の事情を知ることが第一歩」がモットー。

その為にもと、昨年五月頃署員用ガイドブックの執筆を発案、大久保副署長を始め署員の協力を得ながらこつこつと調査、約十カ月をかけて「宗像署員であれば最低限これだけは知っておきたいという事柄」約百項目を書き上げた。

執筆にあたっては、宗像地区のあらゆる故事来歴、資料、文献などを調査、その確認に随分苦労されたそうで、地名辞典などの辞書類も二十冊以上をそろえられた。

「ふるさと紀行」は、「むなかた」という地名の由来に始まり、歴史、神社・仏閣、祭礼・行事、名勝・景観、エピソード、人物、施設・建物など十三章百十四項目からなっており、A5判で約百ページ。写真も約四十枚掲載し、これを見れば宗像のことを全く知らない人でも、すぐに分かるように工夫されている。

加藤署長は、九州管区警察局に奉務中の昭和六十二年にも、「福岡博多メモ」と題した部内資料としての小冊子を刊行されており、今回で二冊目の執筆となるが、この執筆で「歴史と自然に恵まれ、人情味溢れる宗像にますます魅力を感じた。また現在の健康保険制度にあたる定額制度や出産・育児手当の支給にあたる勝浦の忍照さんの産子養育料制度など、我が国の社会保障制度の基礎がこの宗像で生まれたことを知り、驚くと共に大変勉強になった」と語っておられた。

「ふるさと紀行」は二千部を印刷、千部は署員用として同署に保管、残りの千部を希望者に実費で頒布する予定。

社務日誌抄

二月一日　月次祭
出光美術館々長付秋村寛之氏、総務課長山岸清一氏来社
二月三日　節分祭
出光石油化学㈱徳山工場副工場長望月重昭氏外十三名参拝
福岡国税局課税第二部門部長石川浩三氏、香椎税務署副署長楠部氏来社
二月四日　出光石油化学㈱製造部長竹村利貞氏、同課長磯部剛氏、綿野貴彦氏参拝
明光石油㈱社長松本道雄氏外七名参拝
出光興産㈱仙台支店並東北光連会二十一名参拝
出光興産㈱名古屋支店長木村義弘氏並名古屋光連会十三名参拝
JR小倉駅親父会副会長山口一彦氏外四十名参拝
FBS福岡放送制作部課長藤井隆行氏TV「玄界灘冬物語」取材の為来社
二月五日　玄海町消防団第一分団歴代分団長会㈱きんでん九州支社支社長長谷川浩氏外二十三名参拝
出光石油化学㈱富津事務所々長西岡信氏、出光富津工事事務所々長小熊嘉幸氏参拝
二月六日　出光興産㈱愛知製油所、同協力会九社参拝
新宮高校九百名耐久歩行の為来社
二月七日　出光興産㈱兵庫製油所総務課長飯野清久氏外十一名参拝
二月九日　出光石油化学㈱徳山工場業務課タンクヤード係長岩本実氏外三名参拝
田渕海運㈱黒田氏参拝
気多大社宮司三井秀夫氏外八名参拝
二月十日　宗像記者クラブ献上若布謹製作業取材
二月十一日　建国祭
香川県学夫階神社宮司宮本守也氏外三十二名参拝
出光美術館々長山岸清一氏来社
二月十二日　出光興産㈱東京支店並東京出光会二十四社参拝
出光二八会麻生和正氏外三十二名参拝
二月十三日　宗像大社氏子会役員会
二月十四日　トヨタ自動車九州㈱ボディー課々長美山栄二氏外五十名参拝
二月十五日　月次祭
職員会議
二月十六日　長崎県宗像神社宮司弥勒院正行氏外二十名参拝
二月十七日　若布献上奉告祭
苫小牧東部石油備蓄㈱取締役総務部長山本博氏、取締役経理部長佐藤孝夫氏、苫小牧営業所取締役事業所長堤威氏参拝
二月十八日　若布献上
出光興産㈱大阪支店長小野勝男氏、岸和田油槽所々長友滝幸夫氏、関西光連会十一名参拝
千葉旭興産㈱代表取締役高田順甫氏外三名参拝
靖国神社主典稲土豪大氏外実習生二名参拝
㈱新出光初午祭太田権宮司外神職二名出向奉仕
二月十九日　八女市新庄八幡神社宮司蒲池孝氏外五十四名参拝
二月十二日　宗像大社奨学金受給者選定校長会
二月十三日　伊勢湾シーバス㈱社長糸永久雄氏外一名参拝
会計検査院総括調査官大野尚造氏、福岡国税局総務部福山啓而氏来社
二月二十四日　福岡植物研究会筒井直雄氏沖ノ島わさび調査の件にて来社
二月二十五日　堀江神社総代加藤氏外五名参拝
自治省税務局市町村税課自治事務官金子孝氏外一名来社
二月二十七日　出光興産㈱福岡支店総務課長福地千秋氏外七名参拝

〔祭典案内〕

沖津宮現地大祭

来る五月二十七日、宗像大社沖津宮に於て、日本海海戦の日を記念し国家の安泰を祈る、沖津宮現地大祭を斎行しますので、参拝希望の方は御連絡下さい。

記

沖津宮現地大祭要項

一、参拝者は、沖津宮奉賛会費として一名に付、壱萬円お納め頂きます。

二、参拝希望の方は、参拝申し込み書を五月十日迄（必着）に、宗像大社々務所宛に到着する様にお送り下さい。

三、五月二十六日（水曜日）午後六時迄に中津宮（大島）に到着し、受付を済ませ、宵宮祭にご参列して頂きます。

四、五月二十七日（木曜日）午前六時大島を出発。沖ノ島到着後、直ちに海水にて禊をして頂きます。祭典は午前十時斎行の予定です。午後一時、沖ノ島を出発し、大島到着は午後四時の予定です。

五、大島～神湊最終船は午後六時です。

六、渡島不可能の場合は、大島の沖津宮遥拝所に於て祭典を斎行致します。

七、乗船者数に制限がありますので、定員を超える場合はご遠慮頂くことがあります。

八、年令七十才以上の方の渡島は、関係筋の通達によりご遠慮願います。

尚、長時間の乗船に堪えられない方や、健康状態が良好でない方は御遠慮願います。

九、申し込み者には、受付後参加の諾否を、葉書にて御通知申し上げます。

沖津宮参拝心得

一、遊山、魚釣等を目的とし、釣具類を持参しての乗船は固く禁止します。もし、違反があれば、乗船をお断わり致します。

二、沖ノ島上陸の際は、古例により海水にて禊をし、心身を清める事。

三、御神水以外は、一木一草たりとも持ち帰る事を禁止します。

又、厳重なる掟がある為、婦女子の参拝は固くお断わり致します。

※大島での宿泊につきましては当大社ではお世話しかねます。参拝要項に同封の、大島の旅館・民宿のパンフレットを御参照の上、各自にて直接予約をお願い致します。

参拝申込書、心得、要項等を用意しておりますので、返信用切手同封の上左記宛御申込み下さい。

申込先

福岡県宗像郡玄海町田島
宗像大社社務所　儀式課　沖津宮現地大祭係
電　話　〇九四〇㊷一三一一㊥
〒八一一－三五
FAX　〇九四〇㊷一三一五

宗像大社歌会 俳句作品集（三六〇）

ひかりヶ丘　南　風生

風船が二つ双児の乳母車

藤　沢　井上　玄洋

白き襞裾ひく富士に春立てり

福　間　森　清

死期の犬目をうるませて霜夜かな

田　熊　安部　ゆき

陽炎や手押車の蔭ゆれる

福　間　高橋辰次郎

療養の俳句一途に野菊活け

福岡中央　力丸　玄風

別るるを惜しみ余寒の路送る

田　熊　力丸　一郎

霧かけてかけて四ッ塚眠る山

自由ヶ丘　細川　絹子

刺し残す手毬に春のうす埃

日の里　花田いつ枝

福の豆拾はざる掌に福もらふ

津屋崎　井浦　良介

塾生の背に降りかゝる春の星

若　松　井手　清隆

立春の陽がゆきわたり馬関風ぐ

（続）海の寄物 74

再び五島へ

いしいただし

田中氏のベニオキナエビスとオウムガイの一部

福岡空港発七時四〇分の福江行に乗った。前夜には雨が降り風も出てきて、離島の空路は心配だったが―雨雲が低く垂れ込んでいたので離陸すると、雲の中にすぐ入り、更に上昇をつづけ雲の上に出ると、美しい青空と春の陽光があった。三〇分ほどで福江空港に着陸した。ジェット化で時間も短縮している。

福江空港に着くと、富江町の田中栄次氏宅を目指した。氏は相当多量の漂着物を採集され、その中にはベニオキナエビスガイやオウムガイもあるということで、今回の訪問となったのである。

田中氏は今年六八歳、島内の古代遺跡や遺物の発見と採集をされ、考古学関係者では周知の人でもある。特に縄文時代の宮下貝塚の発見をはじめ、島内各地をくまなく歩かれ、打製石鏃石鋸（石鋸を組み合わせて石鉞として使用する石鉞）や異形石器があり、その他に土器類、鉱物、化石、動植物の標本までその量たるや実に厖大なものである。

探究心も強く昨年（一九九二）は富江町沖三・五キロの海上に浮かぶ、無人島の津多羅島に上陸され「鯨供養碑」を発見されている。郷土史家であり、その幅広い研究は博物学者と称してよい。

田中氏宅の訪問は二度目である。前回（一九八七）は考古学関係の遺物や、火山弾、化石類を見せてもらったが、今回は漂着物を主に見せてもらった。

五島でのオキナエビスガイの漂着は平成元年に五島高校の池崎善博先生によって福江島・打折海岸で採集されているが、今回は漂着の他に、エビ網漁にかかったものも多数所持されていた。

ベニオキナエビスガイは切手にもあり、日本特産の貝でもある。貝殻は大きな円錐形を呈し、表面は紅色をした奇麗なもので、殻口の外縁に切れ込み（スリット）がある。日本での分布は紀伊半島、高知県沖、五島列島、沖縄の水深五―二〇〇メートルの岩礫底にすみ現生種は世界に九種で、西インド海域に三種で、南アフリカ海域に一種、日本近海に五種ある（貝・保育社）。種類には十種、十六種と数は異っての記載がある。日本を代表する珍貝の部類に入る。この種は「生きている化石」でもあり、岐阜県の金生山や北海道からも良好な標本が見つかっている。

田中氏のところには、現在三八個あり、そのうち漂着は四個ある。長崎県生物学会誌三七号（一九九〇）には田中氏が「五島列島福江島におけるオウムガイとベニオキナエビスの漂着」という報告を載せられている。

田中氏の採集された漂着ベニオキナエビスガイは、富江町坪海岸に四個漂着しており、どれも螺塔の部分は破損している。漂着以外のものは、富江町沖のウチワエビ漁の網にかかっている。これらは、殻長九センチから六・五センチほどであり、表面は身を抜いた時に、ゆでたために殻表が白色化している。他に一個リュウグウオキナエビスガイら（スリット）は幅はせまくて細く非常に長い。これは四国の土佐沖から東シナ海、インドネシアあたりまで分布している種である。

ベニオキナエビスガイは田中氏のところに生きたままで持ち込まれたものもあり、それを食べられるものであった。身は非常に堅くて、まずいものであったそうである。生貝はウチワエビ漁の網にかかるもので、ウチワエビは水深五〇―一〇〇メートル内外の砂泥底にいるということである。オキナエビスガイは砂質のところであるが、岩礫質と砂泥質の広い範囲のところの可能性があろう。ウチワエビ漁の網にかかるものには、ヨウラクガイ、ハリナガリンボウガイもあった。

またオウムガイの漂着は福江島の玉之浦町大宝海岸、富江町女亀海岸、富江町女亀長崎鼻海岸で、特に玉之浦大宝海岸のものは殻口部の破損がなく、ほぼ完形に近い良好な標本で、福江島近海まで生きた状態が推定されている。

他に私が大変興味を覚えたのは、富江町山崎海岸に漂着した櫂である。全長一一四センチ、柄の部分はT字形をしている。材質はラワンで、明らかに丸木舟用のもので、南方からの漂着物に間違いないものである。

田中栄次氏

宗像むかしばなし

又ぜえ、閻魔大王となる

ご存知福間の又左ヱ門のお話でございます。

生きているうちは散々人をだまし、狐や狸までもだました又ぜえも、とうとう寿命が来ました。それでも晩年は困っている人に金品を施したので「うそだましの又ぜえ」も「ほとけの又ぜえ」といわれた程でした。

又ぜえは死にました。今回は彼の死後のお話しです。又ぜえは死んでも人をだましました。それがどうしても憎めないようなことが多いのです。

死んだ又ぜえは手甲脚絆に身を堅めて死出の旅路を辿っておりました。杖にすがってトボトボと歩いていますと三途の川に鰌（どじょう）がうようよしているのを見つけました。

牛来、いや死来の茶目っ気がむらむらと起りました。早速川の中に飛び込んで鰌を追っかけ始めました。

一方閻魔庁では、閻魔大王が「今日は有名な福間の又ぜえがしんでいるから楽しみだ。もう来なければならん筈だが、遅いなあ、一体何をしているのかなぁ」

時計を気にし乍ら待っております。ところが何時までも現われません。とうとう大王自ら出迎へに出掛けました。途中まで来ると此の仕末、

「こら、又ぜえ、何をしているんだ、遅刻だぞ」と怒鳴ると、土堤の下から

「まあまあこれをごらんなさい、面白いですよ」

見ると、成る程面白そうなたその格好では駄目ですよ」

「ああそうか、ほかにみられては具合が悪いのう、それでは出かけるまでの間、そのぼろ着物を貸してくれ」

「ようございます」

という訳で二人は着物をとりかえました。大王は面白そうに鰌を追い廻しています。そのうちに夢中になってしまいました。土堤の上で又ぜえが舌をべろり。

そっとその場を立ち去った又ぜえ、大きな顔をして閻魔庁へ行き、大王の座へどっかり坐りました。

やがて大王がすごすごと帰って来ました。鰌が取れなかったのです。それに着ているのは又ぜえのぼろ着物です。家来に対しても面目ありません。しかし大王は勇気をふるって御殿に入りました。見ると自分の椅子に又ぜえが坐っています。

「こら又ぜえ何処に坐っているのだ、無礼者！早く降りて来い、着物をかえせ」

大王は大きな声で怒鳴りました。ところが腹を据えてしまった又ぜえ、あべこべに

「何を申すか無礼者、俺が本当の閻魔大王だぞ、その方、福間の又ぜえと申す不届者であろうが、生前から多くの人をだまし、けだもの迄だまして悪事の限りを尽したろうが、どうじゃ、あまつさえ、死んでからまで三途の川で鰌を追い廻してすまされる、一日平均一五〇〇字ずつ、それに画の多い漢字を四十ヶ年間書きつづけた。（二〇〇石余日を一日も休まず写筆しつづけたこと）その根気と努力とには、人間業とは思われなかった。

閻魔庁の閻魔帳に照らし合わせて貴様を地獄へ送ることに判決を下す。鬼共、とっとと引き立てえ―っ」

大喝一声、先刻までの閻魔大王は哀れ地獄行きとは相成ったのでございます。

又ぜえはこれ迄散々人をだましましたので、その道は誰よりもくわしいものですから、絶対にだまされません。大王はこれ迄に沢山の人を地獄へ追いやった罪を背負って地獄へ行きましたので、その後は地獄へ送られた人はありません。それからの又ぜえはすっかり地獄の閻魔大王になり切ってしまいました。今でも又ぜえの閻魔大王は誰にでも殺生を重ねた大罪は、もう許すことならん、依って気軽に会ってくれるそうです。

神郡宗像（十一）

田中政喜

第一章　鎮国寺

第九十代亀山天皇の弘長年中（一二六〇年代）僧貴吉によって、田島村鎮国寺が開基された。

釣川を隔てて田島宮（辺津宮）の東北二町余、天正年間、陶晴賢の姪で宗像大宮司七代宗像氏貞の母が隠棲していた瀧口城跡の峯続きにあって宗像神社の神宮寺として繁昌を極めた寺であった。

本寺は、三面急な山、片立して屏風山ともいわれ、第八十八代後嵯峨法皇（一二四二―二四六）の勅願で、宗像大宮司長氏が唐から帰朝して、当地を巡礼する皇鑒に深く敬慕して、当地への居住を懇請した五社本地の五仏は、実に精巧無比の大木像で、その他元永二年の石仏や保延四年の経筒や銅剣、高麗鐘など諸国にその比を見ない見事なものである。しかし当時、皇鑒から仁秀まで二十八世で座主が廃絶して、その後は山伏が居住したということである。その後文禄年間大友勢の乱入狼藉で、灰燼となって、五仏堂も焼き払ったが、当村の柳新左ヱ門という人が、五智の仏を前の泉水に投げ入れて、五仏は災難を免がれたといわれている。

何しろ乱世で再興もできなかったが、その後高野山回向院から昌伝という僧が下って、徳川家光の慶安三年（一六五〇）再興したということである。

一、石仏　鳥羽天皇元永一年（一一一九）十一月十日建立の供養塔

一、経筒　崇徳天皇保延四年十月二十日

（中味がない）

奉　赤銅塔一基

鎮西筑前国宗像宮内擬大宮司　藤原真忠

一、銅剣・高麗鐘・仏画類

年、七十才になるまで、約四十一ヶ年間毎日風雨のいとまなく、田島の社（辺津宮）と孔大寺権現には必ず欠かさず参詣し、その道すがらも案を頭にかけて歩行の間も忘らず、あらゆる難辛苦を忍び、五千余巻の一切経を残すとこなく書写を終った。この写経は田島の社の近くに文庫を建てて納め、色定も自ら己が像を刻んで写経の前において守護神となることを誓った。よってこの書経は代々の兵乱の時も散失することもなくて厳存して、明治六年の神仏離間の折には色定の像と共に興聖寺に移された。

『義眼の木像で衣帽がきせてある。像の背後には左の訳銘がある。

大日本国鎮西筑前州宗像第一宮座主色定大法師一切経往畫一筆書写行人仁治二年、辛丑十二月九日刻之鈔造像奈畿、次年十一月六日甲申樟板の堅板の箱に入れ、約五千巻入の箱九十箱に納入されている。

（一箱に少ないのには二十五巻、多いのは五十七巻納入）

経巻　一巻の紙数　千枚以内のものの四十枚以上のものもあって不同

書写の当時　五〇〇〇余巻

現存　四二〇〇余巻

よって色定は三日に一巻宛を写経したわけで、一巻の字数を平均四五〇〇字とすれば、一日平均一五〇〇字ずつ、それに画の多い漢字を四十ヶ年間書きつづけた。（二〇〇石余日を一日も休まず写筆しつづけたこと）その根気と努力とには、人間業とは思われなかった。

第二章　鎮国寺

第九十代亀山天皇の弘長